

☆☆文庫あれこれ☆☆

◆1年たってやっと、沙羅の樹文庫の表札ができました。いかがでしょうか？◆台風がいくつか発生しているそうです。今月の文庫は嵐のさ中でしょうか。◆でも、これまでの〈海の日のおはなし会〉、天気予報では雨だ嵐だと言われながらちゃんと戸外で楽しむことができたので、〈海の日のおはなし会〉運に期待してるのですが。今回はラッキーセヴン（第七回）なのですもの。◆雨なら、駅入ったところの階段あたりでやれたら、と思っています。電車の発着のアナウンスを聞きながら？◆会員の方が伊豆急に申し出てください、伊豆急生活ナビ（インターネット上）におはなし会のお知らせを載せていただけました。伊豆急の後援はもともといただいていたのですが、一部の方しかご存知なかったようです。◆おはなし会をはじめたきっかけのひとつは、地元の方はもとより、〈海の日〉の連休にここに来ると、駅の樹の下でおはなしが聴けるらしいよ、と旅人に伊豆高原の魅力的なイベントとして認知してもらえるかな、と思ったのです。タクシーの運転手さんにも広報よろしく、とお願いしちゃいました。◆さて、沙羅の樹も一歳になって、赤ちゃんならすたすたと歩けるようになる頃ですが、文庫は本を読み、探しに、借りに来てくださる方々がいてこそ的一步一歩です。これまでのご利用を感謝してこれからのご支援をお願いいたします。◆一周年までには、蔵書リストを作って一覧でどんな本がどこに配架されているのか、みなさんにわかるようにすることが目標だったのですが、できませんでした。二歳までには、とお約束したいです。◆ネット上にホームページを開きました。文庫の予定など掲載しております。パソコンをお使いの方は、覗いてみてください。http://www.saranokibunko.com/ ご意見お寄せください。◆水もほしいけれど、夏はやっぱり、青い空青い海 からっと暑くて、そして時折こずえを吹きすぎる風、ですね。みなさん、佳い夏をお過ごしください。お盆は文庫開いてま〜す。（西村）



これからの催し物予定

夏休み文庫特別開館期間

★8月12日(日)～19日(日)

※通常開館日を含めて。

文庫の本で宿題や調べものやってみよう!

夏休みに見えたお孫さんと文庫の本を借りて

子どもの本を読もう!

★10月20日(土) 午後6:30～8:00

秋の夜長のおはなし会(おとなのための)

しっとり、もの哀しい、不思議な物語で

秋の一夜をお楽しみください。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆8月は、通常の第3土日(18, 19)まで、12日(日)から連日開館予定。

◆9月は、15(土)、16(日)の両日です。

◆文庫の時間は土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。

午前10:30～11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

♥会員更新まだの方は、
お願いいたします。♥

沙羅の樹文庫だより

No. 11

(2007年7月号)



この写真は、いつごろの海でしょうか。
雲が走って行きます。波もうねりを見せています。

7月の空模様は、空梅雨から一転。
九州では、豪雨による被害が続出しているようです。

今月の文庫は、どうも嵐に見舞われそう?!

文庫のおはなし会、
そして伊豆高原駅での「海の日のおはなし会」
晴れるといいなっ!

沙羅の樹文庫、一歳になりました。

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へおすすめの本★

(文庫の棚の本を紹介していただいております)

『としょかんライオン』(ミシェル・ヌードセン作 ケ
ビン・ホークス絵 福本友美子訳 岩崎書店 2007)

タイトルを見た時 はて？これはライオンの事ばかり書かれている本なのかな？と思って読んでいくと全然違うのです。

ある日ライオンがとしょかんにやって来てずんずん中に入って行くのです。としょかんのきまりにライオンはおことわりなんていうのはありませんから、毎日やって来てやがてライオンは子どもたちと一緒におねえさんのお話を聞く様になるのです。それを面白く思わない人もいますが、ライオンは子どもたちと仲良くなったり、図書館員のお手伝いまでする様になりました。そんなある日、ちょっとした事件が起きてしまうのです・・・。

動物好きの私は沙羅の樹文庫にもこんなライオンがいたらいいのになーって思うのです。子どもも大人も心温まるお話です。(森川 理恵)

『おばあさん』(ニエムツォーヴァー著 栗栖継訳
岩波書店(岩波文庫) 1977)

岩波書店『図書』の「文庫創刊 80 年記念号」の中に、各界の方々のお勧めの岩波文庫が特集されていて、林あまり(俳人)のおすすめのこの本に目が留まりました。本屋さんで絶版と言われ、後は図書館(もちろん伊東の図書館には無しとのこと)か古本屋さんしかない、手に入らないとなるとますます読みたくなりまし

たが半ばあきらめていたところ、西村さんが見つけてくださいました。

文庫 1 ページ目の「訳者はしがき」には、「19 世紀のチェコの有名な婦人作家で、民族・社会解放運動の先駆者でもあった作者の代表的長編で、チェコ人なら誰でも読んでいる国民文学的作品である。」とありました。

そして書き出しは、「わたしが、最後に、あのやさしい、おだやかな顔を見、あの青ざめた皺だらけの頬にキスし、善良さと愛情がありありと出ているあの青い目に見入ったのは、もうずいぶん前のことです・・・あの善良なおばあさんはもういません。しかしわたしにとっては、おばあさんは死んでいません。」 そんなおばあさんの生涯を綴ったものです。

長く住んでいた土地に涙と共に別れを告げて、娘のそばに引越しをしていくおばあさんです。200 年も前のお話ですが、昔のものを大切にする生活や、周りの人たちとのあたたかい暮らしぶりなど、心にしみてくることばかりです。

小さい頃まだ大家族で育ったたいいの人には、そんなおばあさんの思い出がたくさんあるのではないでしょう。(中西 景子 07.07)

★としょかんとライオンについて描かれたおはなしに、『アンディとらいおん』というアメリカの絵本があります。これは、文庫にあります、趣のちがうおはなしですが、これもまた、なかなか心あたたまるおはなしです。

★中西さんの文中にあったように、『おばあさん』は文庫にありません。東京の私の住んでる街の図書館の書庫に眠っていました。中西さんに久しぶりに日の光をあててもらったのですね。この『おばあさん』は同じ訳者で、

『岩波少年文庫 1979』も出ていますが、やはり閉架書庫にあり、今では殆ど読まれていないようです。見つけて、子どもたちにもぜひ紹介したいですね。時には、古本屋をめぐったりネットの古本屋情報を検索してみましよう。宝物に巡り会えるかも知れません。(西)

＜文庫のひとりごと＞

☆おとなの本はこの1年間でほとんど倍になった。去年から今年出版された本がずいぶんと入ってきてるけど次々と借り出される。彼らが本棚に戻るのはいつのことか。返ってきたらとつかまえて読んでやろうと待ち構えているのだが。☆だが、新刊ばかりじゃなくて、もっと気楽に楽しく読める本が、いいな、と言ってる利用者の声も聞こえるぞ。80歳を過ぎた方たちの読者のよこびも考えてくれ。☆子どもと本の出会いはいろいろあるぞ。何もいい本ばかりが、その子を読書のよこびに引っ張っていつくれるわけではないぞ。だが、とにかく、本とのいい出会いをさせたいものだ。☆ようし、これからも、アンテナはって文庫のひとりひとりの会員の好みを感じとるぞ。☆それから、壁の花にならないように、書架のなかから、おもしろい本を探して紹介するぞ！☆ためしに、今月は星の本をひっぱりだしてみた。『星と星座』(小学館の図鑑NEO)『天体観測の達人』(PHP)『星座大全：春、夏、秋、冬の星座 全4冊』(作品社)『星めぐり』(フリズル先生のマジック・スクールバス：岩波書店)『星の王国の旅』(丸善)『ようこそ宇宙の研究室へ』(くもん出版)・・・星座速見表もあるぞ。☆家族で夏の星座探検でもしてはいかがかな！

☆☆こんな本が、この人の本が、読みたい、など、どうぞリクエストしてください。手元の許す限り、少しづつでも、入れていきます。(沙羅の樹)☆☆